

〈重点課題〉

1. 地域小規模施設は富田林市に女子ホームを一カ所設置しました。男子ホームは次年度に持ち越しました。小規模グループケア（ユニット）は本体施設に二ヶ所増設しました。
2. 運営及び支援内容については子ども家庭センターの指導も受けながら、討議してよりよい支援をめざしました。コモンセンス・ペアレンティングを職員研修で学びました。
3. 創立70周年に向けての準備はできませんでした。
4. 職員育成制度は計画的に取り組むことができませんでした。

〈利用者支援計画〉

1. 権利ノートなど活用して子どもたちの権利意識を高めるようにしました。セカンドステップを実施して暴力防止につなげました。
2. 児童自立支援計画に基づいて、個別援助につなげました。
3. 児童の情緒安定のために児童相談所等、関係機関と連携をとりました。「処遇困難事例検討会」でコモンセンス・ペアレンティングを学びました。
4. 家族再統合に向けて、各関係機関と連携を深め、家庭支援専門相談員を中心に、子どもにとって最善の方法を選択しました。
5. 子ども自身が主人公の自治活動を行い、各種行事を通して子ども同士の仲間作り、職員との信頼関係作りに取り組みました。
6. 生い立ち・進路、性教育、指針・権利擁護、食事委員会を充実させ、自立支援に活かしました。職員の研修にも取り組みました。
7. 食事委員会を中心に「食育活動」に取り組み、食生活の実践方法を検討しました。子どもたちの声や食のノートなども参考にしました。
8. 心理治療については心理士と直接指導の現場、児童相談所のケースワーカーとも連携をとりながら、実施しました。
9. 子ども、保護者から寄せられる苦情についてはいねいに答えて、解決に努めました。第三者評価結果を支援につなげることは継続中です。
10. 里親支援事業は、里親支援専門相談員を中心に活動の場をひろげました。里親の研修実習も受け入れ、週末里親などに結びつけることができました。

〈地域福祉拡充計画〉

1. 第52回「たかわしこどもまつり」を開催しました。今回も大勢の子どもたちで賑わいました。

2. 「子育て短期支援事業」に委託契約した市町村と述べ25件受け入れました。
3. 羽曳野市、富田林市の「要保護児童対策地域協議会」に代表者、実務者として参加しました。
4. 地域関係団体と連携して地域小規模施設や里親制度の理解を求めました。
5. 近隣地域の方々の理解を得られるように努力しました。恵我之荘小学校のPTAの役員にもなりました。
6. 広報誌「ほっとほーむ」を年二回発行、ホームページの更新公開に取り組みました。

〈民主的管理運営〉

1. 施設運営や児童援助等の課題が全職員共通のものにはなりにくく、改善が必要です。
2. 支援ハンドブックが完成できませんでした。次年度の課題です。
3. リスク管理は見直し、点検が必要です。ヒヤリハット、事故報告は全職員が周知できるようにしましたが、法人への報告ができませんでした。虐待防止委員会の記録が残せていません。
4. 配置基準の引き上げによる業務内容の見直しは、人材育成の課題として残りました。

〈人材育成・教育研修計画〉

1. 児童養護施設の職員として、綱領や指針を学習することが大切です。日日の業務に追われて、専門性を高めることが不足していました。職員の不適切な行為を招く結果にもなりました。
2. 職員育成制度は最後までやりきることができませんでした。

〈財政基盤強化計画〉

1. 財政の安定化のために入所児を積極的に受け入れましたが、高年齢児の問題行動に対応できない場面もありました。
2. 新たな配置基準とユニット化により、一定額の積立金が計上できました。
3. 支援計画と予算が結びつくように実施しましたが、検討課題は残りました。

〈施設整備計画〉

1. 一カ所の地域小規模施設の開設、本体に二ヶ所のユニットを施工しました。

〈総合社会福祉研究所・「福祉のひろば」普及・発展のために

1. 10月21日羽曳野・松原ブロックの「読者のつどい」で、石川康宏教授を講師として、憲法の話しを学習しました。

〈財団後援会のために〉

1. 職員一同で早期の目標達成ができました。